

令和6年度 第4回豊能町教育委員会会議（7月定例会）会議録

日 時： 令和6年7月25日（木） 午後2時00分開会

場 所： 豊能町役場 2階 大会議室

出席者：	教育長	板倉 忠
	教育委員	宮崎 純光
	教育委員	坂口 敏子
	教育委員	富永 彰一
	教育委員	馬渡 秀徳
	教育委員	小松 郁夫
事務局：	こども未来部長	仙波 英太朗
	教育総務課長	池田 拓也
	義務教育課長	峯 亜希子
	こども育成課長	高田 浩史
	生涯学習課長	中谷 匠
	教育総務課主任	横山 悟士

傍聴者： 13名

会議次第

○審議事項

第6号議案 「令和7年度使用小学校及び中学校教科用図書の採択について」

○各課・室からの報告

【教育長】

それでは会議を始めます。ただいま出席委員は5名です。過半数に達していますので、これより令和6年度第4回豊能町教育委員会会議（7月定例会）を開催いたします。会議録署名人を宮崎職務代理にお願いいたします。それでは議題に入ります。本日は審議事項が1件ございます。第6号議案「令和7年度使用小学校及び中学校教科用図書の採択について」でございます。事務局より説明を求めます。

【義務教育課長】

第6号議案「令和7年度使用小学校及び中学校教科用図書の採択について」、提案をさせていただきます。初めに資料の確認をさせていただきます。1つ目に「令和7年度使用小学校及び中学校教科用図書の採択について」、続きまして、「豊能郡地区における令和7年度に使用する中学校（義務教育学校後期課程）教科用図書の採択について（答申）」。3つ目に「豊能郡地区における令和6年度に使用する小学校（義務教育学校前期課程）教科用図書の採択について（答申）」。4つ目に「令和7年度使用豊能郡地区中学校教科用図書選定理由書」。5つ目に「令和7年度使用豊能郡地区中学校教科用図書推薦書」。6つ目に、「令和7年度使用豊能郡地区中学校教科用図書調査報告書」。最後に、「義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関する法律（抜粋）」となっております。おそろいでしょうか。なお、「令和7年度使用豊能郡地区中学校教科用図書選定理由書・推薦書・調査報告書」につきましては後日、町のホームページに掲載をさせていただきます。

中学校教科用図書の採択に当たりましては、4月下旬に調査員を選出して調査研究委員会を設置し、豊能町、能勢町の両町事務局も入り、時間をかけて丁寧に調査研究を進め、調査報告書を7月2日に提出いただきました。また、豊能郡地区教科用図書採択協議会には、能勢町、豊能町の校長代表、保護者代表も入っていただき、検討をしていただきました。教育委員の皆様にも、5月下旬より見本本を巡回させていただき、7月12日には、教育委員さんの学習会・意見交換会を開催させていただいたところです。簡単ではありますが、これまでの採択の経過についてご報告とさせていただきます。では提案をさせていただきます。

第6号議案「令和7年度使用小学校及び中学校教科用図書の採択について」をご覧ください。提案理由といたしましては、令和7年度に使用する小学校教科用図書及び中学校教科用図書について、別紙選定理由書により、「豊能郡地区における令和7年度に使用する中学校（義務教育学校後期課程）教科用図書の採択について（答申）」、及び「豊能郡地区における令和6年度に使用する小学校（義務教育学校前期課程）教科用図書の採択について（答申）」を受け、「義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関する法律第14条」により採択するものでございます。

それではまず、中学校教科用図書の採択につきまして、種目ごとに選定理由を含めてご説明させていただきます。ご審議をお願いいたします。

【教育長】

まず初めに種目、国語になります。

【義務教育課長】

国語は4社ございまして、推薦として挙がってきたのが、三省堂と光村図書でございます。そのあと採択協議会で協議をし、国語は三省堂を答申として挙げさせていただきます。

選定理由書の2ページをご覧ください。選定理由としましては、
○生徒にとって興味、関心のある題材で、適切な文章の記述と分量になっている。
○「思考の方法」では、思考の仕方を「思考ツール」等を交えてまとめており、教材の学習内容を深められるよう、図解を用いて解説されている。
○巻末に文章の「読み方に関するポイントのまとめ」や「メモの仕方」、「話し合いの仕方」など、対話に関わる知識や技能がまとめられており、言語活動を進めるにあたってのポイントがたいへんわかりやすく、付録が充実している。

という点が選定の大きな理由となっております。現在使用している教科書は三省堂ですが、調査員の先生方からはさらに教材研究を深め授業ができるというご意見もありました。

国語につきまして、ご審議お願いいたします。

【教育長】

ただいま事務局より説明がありました。ご意見、ご質問等ありますでしょうか。

【委員】

国語の教科書というのは非常に狭い意味での言語の教科書であります。それだけではやはり物足りないので、そういう面で言うと内容的に、先ほど選定理由の最初に出てきました「題材として、様々なことを扱った文章をここで学ぶ」ということが大事だと思います。

国語で大事なことは2つあり、1つは言語としてしっかりと学べるか。2つ目は、言葉として他の教科にも合わせて、言語環境をしっかりと学べるような題材になっているかどうかということが大事です。題材として新しい内容について触れていて、三省堂という会社は、辞書では非常に歴史のある、言葉を大変大事にしてきた会社であります。そういう会社としての強みがこの教科書づくりの中に反映されているなど評価をしました。

国語のこの教科書を使って、どういうふうに教えるかが非常に大事なことになるので、先生方には工夫をして欲しいと思います。先ほど選定理由の中で触れられていましたけれども、思考のプロセスとか思考の方法を、言語を題材にしてわかりやすくできるようになっています。人間が物事の情報を集めて判断するためには、どういうプロセスがあるのか、あるいはどういう段階があるのか、中学生でもある程度わかりやすく載っています。古典的な言い方では論述の仕方とか弁論の仕方とか、ある種の哲学というか論理学みたいなことも現代風に図式化されていたりしているという点で、他の教科書と比べるとそういった特徴がまとめられていて、私もこの三省堂の採択に賛成です。

【委員】

勉強すること自体がしんどい中学生たちにとって、取り上げられている作家さんがよく聞く今どきの作家が多く、とっつきやすい印象を受け、そのあたりの配慮が良いなと思いました。

【教育長】

よろしいでしょうか。国語は三省堂ということで進めさせていただきます。採択につきましてはあとでまとめてさせていただきます。続きまして、書写の説明をお願いいたします。

【義務教育課長】

書写は4社ございまして、推薦として挙がってきたのが三省堂と光村図書でございました。採択協議会で協議をし、書写につきましては光村図書を答申として挙げさせていただきます。

選定理由書の2ページをご覧ください。選定理由としましては、

- 「学びのカギ」には、学習のポイントが丁寧にまとめられており、特筆に値する。
 - 見開きに半紙と同じ大きさの手本、前ページにポイントを配置することで、すべての生徒にとって書きやすく、指導者にとっても指導がしやすいように非常に配慮がされた教材となっている。
 - 日常に役立つ書式（手紙・葉書・年賀状・包み紙・願書など）の特集があるため、授業以外でも興味を持ち、調べ、実際の社会生活に活かした学びを特に進めることができる。
 - 硬筆学習用の「書写ブック」が別冊となっており、非常に使いやすい。
 - QRコードコンテンツでは、書き方（筆使い）の説明が2つのアングルを組み合わせた動画で解説されているため、非常にわかりやすい。
- という点が選定の大きな理由となっております。書写につきましてご審議お願いいたします。

【教育長】

ただいま書写についての説明がございました。ご意見、ご質問等ありますでしょうか。

【委員】

私自身、習字教室を昔やっておりました。見させていただきましたが、見開きに半紙と同じ

大きさの手本があり良かったです。日常生活に活かせる内容の学習の1つの教科書になっているのではないかと思います。

【教育長】

色々な日常に役立つ書式が取り上げられていて、子どもたちにとっては良いのではないかと思います。ご意見ですね。よろしいでしょうか。続きまして、社会の地理的分野に移らせていただきます。

【義務教育課長】

社会の地理的分野は4社ございまして、推薦として挙がってきたのが、教育出版と帝国書院でございます。採択協議会で協議をし、社会の地理的分野は帝国書院を答申として挙げさせていただきます。

選定理由書の3ページをご覧ください。選定理由としましては、

- 世界の多様な文化の尊重について、理解できるように適切に取り扱われている。世界の諸地域ごとに「未来に向けて」や「地理プラス」が設置され、諸地域の多様な価値観や文化の共生をはかる人々の姿が紹介されている。
- 地形図が標高差を含めて非常に見やすく、地図帳との連携が図られており、活用が促されている。
- 巻頭でSDGsについて取りあげ、「日本の諸地域」の各地方での「未来に向けて」において事例を掲載して関連付けしている。主体的に現代の世界や日本の課題を読み解いたり追求したりする学習展開になるように工夫されている。
- 写真、挿絵、図、表などの資料については、非常に見やすく、比較しやすいようになっている。

という点が選定の大きな理由となっております。社会地理的分野につきまして、ご審議をお願いいたします。

【教育長】

社会地理的分野について説明がありました。ご意見・ご質問等よろしいでしょうか。

それでは、地理的分野は帝国書院で進めさせていただきます。次に、歴史的分野の説明をお願いいたします。

【義務教育課長】

続きまして、社会歴史的分野は9社ございました。推薦として挙がってきたのは東京書籍、教育出版、帝国書院、日本文教出版でございました。採択協議会で協議をし、社会歴史的分野につきましては、日本文教出版を答申として挙げさせていただきます。

選定理由書の4ページをご覧ください。選定理由としましては、

- 時代を見通す「導入」と「本文」、資料をもとに考える「チャレンジ歴史」、学習の幅を広げる「歴史を掘り下げる」、学習した時代の特色を考える「まとめとふり返し」という流れで単元が構成されており、使いやすい。
- 時代像を具体的にイメージできる図版を豊富に掲載し、「資料活用」を使って、いろいろな切り口から、ポイントをおさえた資料の読み取りができるようになっており、充実している。
- 各時代の特色や時代の転換に関係する基礎的・基本的な歴史に関わる事象を重点的に取りあげ、歴史の大きな流れを的確におさえられるように、端的にまとめている。

という点が選定の大きな理由となっております。社会歴史的分野につきまして、ご審議をお願いいたします。

【教育長】

説明ありがとうございます。ご意見・ご質問等ありますでしょうか。

【委員】

すごくピンポイントの細かいことを申し上げて恐縮ですが、最後の項目がとても良いなと思ったのですが、最後の項目の各時代の特色や時代の転換に関する基礎的云々ということに関しまして、例えば三美神でいうと、古代、中世、そしてルネサンスとありますが、中世とルネサンスしかない教科書会社が結構ある中で、日本文教出版は古代もあって、写真を見るだけで、子どもたちに訴えられるようなところが良いなと思いました。

その時代がいつごろなのかの表示が教科書の端にあるのですが、時代の幅があるので、もう少しこの時代のこの辺だというのがわかれば、もっと良いと思いましたが、比較がとても良かったので賛成です。

【委員】

歴史的分野の教科書が一番出版社の数が多く、それだけ教科書の作り方や個性が出てきます。私はそれぞれに良さがあり、非常に選定するのが難しいなと思いました。やはり大事なことは、社会科に対するイメージで言うと、3分野の中で特にこの歴史的分野は社会科の課題でもある暗記型みたいな学習になりがちです。なので、歴史から何かを学び取る、あるいはそれをさらに掘り下げるみたいな学習が非常にしやすい教科書が良いです。先生の授業力にも関わってくると思いますが、単に過去にこんなことがあったということ覚えなさい、暗記しなさいではなく、それを1つの契機にして、今私たちがあり、これから私たちの社会がどうなるのかということを探求的に学ぶというような教科書が編纂されているのが非常に良いと思います。そういう面では、日本文教出版の教科書が相対的に先生方のやりやすい形のものに編集されている感じがして、選定委員会からの推薦に同感いたします。

【委員】

この選定理由の文章の中にもあるのですが、人権課題について、日本の歴史の中では大きな問題で子どもたちが知っておくべきことだと思います。その課題について先人の紹介や差別問題についてしっかり説明されている。日本のこととして琉球王国から沖縄へとか、アイヌとか、部落差別の問題等がきちっと捉えられ、説明されて、その当時を振り返るように、自分たちが考えられるように編集されていると思います。人権課題は世界的にも大きな問題です。まずは自分の国のことをしっかり知るべきだという思いがあります。なので、この日本文教出版が良いと思います。

【教育長】

よろしいでしょうか。それでは、続きまして公民的分野になります。

【義務教育課長】

社会公民的分野につきましては6社ございまして、推薦として挙がってきたのが教育出版、帝国書院、日本文教出版でございました。そのあと採択協議会で協議をし、社会公民的分野は教育出版を答申として上げさせていただきます。

選定理由書の5ページをご覧ください。選定理由としましては、

- 公民分野に必要な社会科の基礎的・基本的な事項がおさえられているだけでなく、社会の課題や今日的課題が反映された事象が積極的に取りあげられており、学習と社会とを結びつけやすい。
- 第2章の中で、「人権」という項目をしっかり設定している。内容も、様々な差別の実態やそれに関連した過去のできごと、なぜ差別が生まれてしまうのかなどについて考えられる内容となっており、基本的人権に関わって非常に丁寧に掲載されている。
- 見開きの初めにある「Look!」や「学習課題」で社会との関わりを意識した課題が設けられ、社会課題の解決に結びつけながら学習展開ができるように工夫されている。見開き最後の「表現」では、他者との対話や意見交換を通して、協働的学びができるよう課題が設定されている。

という点が選定の大きな理由となっております。社会公民的分野につきまして、ご審議お願いいたします。

【教育長】

ただいま説明がありました。ご意見・ご質問等ありますでしょうか。

【委員】

実は今、大学の教職課程で社会科教育の免許を取る学生の授業をやっている、この社会科の教科書に大変関心があります。現在使われているものを比較しながら授業をやっているのですが、特にこの公民的分野というのは、1つには先ほどの地理的分野と歴史的分野の学びを踏まえて、公民的な部分を学ぶという部分があります。それから高等学校で「公共」という新しい分野ができた関係もあって、中学と高校との接続の問題で、現代社会についてしっかりと学ぶ必要があると思っています。

人権の問題もそうですし、それ以外にも様々な現代社会の課題があります。地理的・歴史的なものを学ぶと同時に、小中高を通した社会について、しっかりと中学校段階のこの公民的分野の中で学習してもらう意義というのは非常にあると思います。各社よくできてはいますが、人権の問題もそうですし、特に探求的な学習が割合しやすいと期待されている部分もあるので、学んだことをどう主体的に活かしていくのかを生徒と一緒に考えていきやすい教科書を選定する必要があると思います。そういう面ではそれぞれ良さを持っていますが、最終的には教育出版社が良いなと思いました。

ただ、教育出版社も含めてやや物足りないなと思っているのは、過去や現在だけを学ぶと同時に、今後10年後、20年後、30年後の中学生自身の将来に向けた学び、それをもう少し探求的に学んでいくことに関して言うと、現在の教科書は全体的に少し不満があります。ぜひ授業で教科書を使いながら、君たちの10年後、20年後、30年後はどういう社会になっていくのだろうかということについて一緒に考えていく。それから生徒同士が今まで出ている様々な情報を参考にしながら、例えば少子高齢化のこと一つを絞っても、人口推計とか、今日も新聞のニュースで日本の人口が今年もまた減っているというデータが出ました。そういった問題を使いながら、君たちの10年後、20年後、30年後はどうなるのだろうかということと一緒に考える探求的な学びを、出ている情報データを参考にした学びをして欲しいです。

少し厳しい言い方ですが、社会科の教科書会社に対して私はもう少し未来志向の、でき上がった知識を学ばせるだけではなく、それを使って自分たち、中学生自身の人生の未来について学ぶということにももう少し力を入れて欲しいなと思います。幸い豊能町は「とよの未来科」という非常に素晴らしい学習テーマを掲げていますので、まさに豊能の未来について学ぶということを、社会を中心として引き続きやって欲しいと期待して、採択としては教育出版でいいかなと思っています。以上です。

【教育長】

今回、色々な教科書に「探求」というものがテーマとしてあります。それを授業でどう使えるかがとても大事なことだと思います。よろしいでしょうか。それでは続きまして地図になります。説明をお願いします。

【義務教育課長】

地図は2社でございまして、推薦として東京書籍と帝国書院が挙がっております。採択協議会で協議をし、地図につきましては帝国書院を答申として挙げさせていただきます。

選定理由書の5ページをご覧ください。選定理由としましては、

- 問い「地図で発見！」が数多く設置されている。地図の読み取りだけでなく、「社会的な見方・考え方」を働かせた学習に活用できる。
- 資料は、地域の特色を適切に理解できる題材が選定されている。そのため、教科書で取り扱われる内容をより深められる。
- 修学旅行の事前・事後学習や平和学習などにも活用できるよう、様々なイラストが入った親しみのある地図が多数掲載されており、調べ学習がしやすいように工夫されている。

という点が選定の大きな理由となっております。地図につきましてご審議お願いいたします。

【教育長】

ただいま説明がありました。ご意見・ご質問等ありますでしょうか。よろしいでしょうか。選定理由には、資料がとても充実しているというご意見がありました。では続けて数学に移ります。

【義務教育課長】

数学は7社ございまして、推薦として挙がってきたのが、東京書籍、数研出版、日本文教出版でございます。採択協議会で協議をし、数学につきましては、東京書籍を答申として上げさせていただきます。

選定理由書の6ページをご覧ください。選定理由としましては、

- 写真、挿絵、図、表などの資料が発達段階を考慮したものになっている。
- 全体に適切な内容・分量の問題が配列されており、知識・技能やそれらを活用する力が段階的に身につくようになっている。
- 数学どうしのつながり、身のまわりや社会と数学とのつながりを示すことで、数学の必要性や有用性を生徒が感じられるよう工夫されている。
- 「章のとびら」（導入）では、生徒の関心・意欲を高める日常生活の場面を提示し、主体的に学習に取り組めるように工夫されている。

という点が選定の大きな理由となっております。調査員の先生方からは、「数学の楽しさを生徒に感じて欲しい」と思っており、この東京書籍は数学の楽しさを感じられる内容になっている」というご意見がありました。数学につきまして、ご審議をお願いいたします。

【委員】

東京書籍が推薦に挙がっていて、基本問題がとてもわかりやすく良いなと思いました。個人的な意見を申しますと、中学校の数学で、文字であるとか無理数であるとか、今までに使っていない数を表すところの単元で、その数がイメージできない生徒がたくさんいると思います。

その導入の仕方・表し方で、どの会社も1, 2, 3, …と続いていく中で、色々な数が入っていくところをまとめてxで表すというような書き方が結構あります。1, 2, 3, …が変わるまではわかるのですが、急に文字になると子どもたちは分からなくなることがあります。その辺り、□（四角）を挟んでいる会社がありました。東京書籍も少しその辺りを丁寧に、イメージができない子向けに工夫していただけたら良いなと思いました。

もう1つ、無理数であるルートのところですが、各社、面積に 2cm^2 の正方形の辺が $\sqrt{2}\text{cm}$ になるという表現になっています。それを文字、 $A\text{cm}^2$ が $\sqrt{A}\text{cm}$ だと書かれているところがありました。東京書籍は 2cm^2 の辺が $\sqrt{2}\text{cm}$ 、 $A\text{cm}^2$ が $\sqrt{A}\text{cm}$ と書いてあったのですが、日本文教出版が、面積が15で辺が $\sqrt{15}$ と書いてあり、あえて単位がなく面積という言葉で表しています。 cm^2 をつけることで、この単位の意識がなくて、わからない子どもがたくさんいるので、個人的には日本文教出版が良いと思いました。以上です。

【義務教育課長】

今いただきましたご意見ですが、調査員の方も複数の出版社を比べまして、調査する中でどの出版社もよくできていますが、東京書籍は前回に比べて中身を見直しされていて、前回よりもとてもわかりやすくなっているということで一番に推薦されているということと、テストで点数を取るということよりも、数学を学ぶことの楽しさを子どもたちに伝えるときには東京書籍が良いのではないかとということです。貴重なご意見ありがとうございました。

【委員】

数学の教科書は他の教科もそうですが、中学校の場合は教科専門の先生が教えるので、その教科が得意でない人でも教えられるような内容の教科書にするよりは、ほどよく先生がその教科書を使って、プラスアルファ数学的な学びができるような内容になっている教科書が良いと思います。

数学がすごく得意な子ども、そうでもない子ども、やや苦手な子どもと3段階に分ければ、それぞれ各社、これぐらいのレベルの学力の子どもを意識して作っているなという感じが私には感じ取れました。そういう点で言うと、東京書籍は非常にバランスよくできていて、先生方がある程度工夫しながら教えつつ、中には自分でどんどん学習できるような形になっていて、私も最終的には東京書籍が良いかなと思いました。

ただ、苦手な子どもの場合には、数学の裏の面白さ・数学的な楽しみみたいなことが色々工夫されていると、数学を親しむのにはすごくいいなと思います。そういう面で、最終的に東京書籍を採用するとしても、先生方にはできれば他の教科書会社あるいは一般図書の中で、数学的な見方・考え方・数学的な面白さみたいなことについて、ぜひ授業の中で少し余裕の時間を作っていただきたいです。

実は数学のこんな面白い発見があったんだよとかこんな見方があるんだよみたいなことを、エピソード的に授業の中で話をされて、数学＝計算で答えが1つみたいな形の、古いタイプの数学的な学力からはできるだけ脱却していただきたいと思っています。そういう面で言うと、最終的にはどの教科もそうですが、先生たちの教科書を使っただけの授業の工夫が求められます。生徒によっては自分でも積極的に予習をし、さらに学びに向かう力をつけていけるともっと豊能町の中学生の学力が伸びていくのではないかなと思います。色々な会社の数学の教科書を拝見していました。私も東京書籍の教科書で良いかなと思います。

【教育長】

他にございますでしょうか。よろしいでしょうか。次の種目の理科についてお願いいたします。

【義務教育課長】

理科は5社ございまして、推薦として挙がってきたのが東京書籍と啓林館でございました。採択協議会で協議をし、理科につきましては、啓林館を答申として挙げさせていただきます。

選定理由書の7ページをご覧ください。選定理由としましては、

- 大きい紙面のAB版サイズが採用され、特に写真や図がわかりやすい。
 - 見方・考え方の正解ではなく、探求の足場となるヒントを示すことで、主体的な思考をしやすいように非常に工夫されている。
 - 特に単元の導入が工夫されており、単元の学習に関連した身の回りの疑問について考えることで、この単元の学習の見通しが立てやすい構成になっている。
 - 学びを活かして日常生活に見られる現象を考察する場面が、特に多く取りあげられている。
- という点が選定の大きな理由となっております。理科につきまして、ご審議をお願いいたします。

【教育長】

理科につきまして、ご意見・ご質問等ありますでしょうか。

【委員】

私は中学校の理科の教員をしておりまして、啓林館を使ったり東京書籍を使ったり、また時期によっては1分野と2分野で分かれていた時は、両方を使ったりしていました。

長い自分の経験の中で、協働的な学びということが理科ではとても大事で、発見して何かを考えつき、子ども同士で相談し、また発見していくということを実践してきました。啓林館について、1人ではなくみんなで対話をしながら課題に向かっていくような例も教科書の中に採用されていて、実験の仕方、観察の仕方について子どもたちがやろうとする気持ちを出せるような工夫がされています。もっと発展的な学習をしたいとか、そういう理科に特に興味のある子どもたちに対しても、色々な手立てを講じていくということも大事かと思います。個別的な学びが、QRコンテンツを活用して自分がどんどん調べていくという、個別の学習に配慮されていてとても素晴らしいと思います。以上です。

【教育長】

よろしいでしょうか。続きまして、音楽（一般）につきまして説明をお願いします。

【義務教育課長】

音楽（一般）は2社ございまして、推薦として教育出版と教育芸術社が挙がっております。採択協議会で協議をし、音楽一般につきましては、教育芸術社を答申として挙げさせていただきます。

選定理由書の7ページをご覧ください。選定理由としましては、

- 3学年を通して、「声の出し方」がわかりやすく説明されており、カンツォーネの選曲がより適切である。
- 楽典がリズムゲームを使って楽しく学習できるように工夫されている。特に今年度全学年一新された巻末の「音楽を形づくっている要素」では、生徒にとって難しく感じる内容をわかりやすく示されている。
- 鑑賞教材について、曲の構成を楽譜やワークシートによって、より深く学べる工夫が多く見られる。「交響曲第5番 第1楽章」では、「動機」がとても見やすく示されている。また、今回、中学生になじみのあるミュージカルが、新たに掲載されている。
- 創作や指揮について、説明や図でより詳しく説明されており、3学年を通して発展的に学習することができるよう配慮されている。

という点が選定の大きな理由となっております。音楽（一般）につきまして、ご審議お願いいたします。

【教育長】

ただいま説明がありました。ご意見・ご質問等ありますでしょうか。

【委員】

4つ目の理由にある、「楽典のリズムゲームを使って楽しく学習できるよう工夫されている。」という項目がとても良かったです。リズムを自分の好きなように作ってみるとなると中々できない子どもも、3×3の正方形のマスのところ、斜めにいくとこういうリズムになる、縦だとこうなると、苦手な子に対しても簡単にできるようなゲーム方式で書かれているのはとても良いなと思いました。

あと巻末の、音楽を形づくっている要素というところが、何となく理解している音楽というものを、音楽は音色で変わったり速度で変わったりするということを分類して書かれていることによって、なるほどなと思う子どもがたくさんいると思います。そのあたりのまとめ方がとても良いと思いました。

【教育長】

では続けて、音楽（器楽合奏）について事務局より説明をお願いします。

【義務教育課長】

音楽（器楽合奏）も2社でございます。推薦として、教育出版と教育芸術社が挙がっており、採択協議会で協議をし、音楽器楽合奏につきましては、教育芸術社を答申として挙げさせていただきます。

選定理由書の8ページをご覧ください。選定理由としましては、

- 基礎的・基本的な奏法について、適切な文章とイラスト、写真を用いて配慮されており、生徒にとって親しみやすい教材が配置されている。また、生徒の心身の発達段階に即して学習が進められるように配慮されている。
- アルトリコーダーでは、導入のための曲が充実しており、基本練習から独奏・アンサンブルと段階的に配列されている。また、「リコーダーの種類」や「楽器を知ろう」など生徒が興味をもって学習できる工夫がされている。
- 和楽器の取り扱いについて、写真や図版をふんだんに用いて、わかりやすく説明されている。また、初級として導入する曲が多く、弾き歌いができるよう工夫されている。

○豊能郡内の中学校で取り組んでいるアルトリコーダーとギター・和楽器について、教材がよく考慮され、扱いやすい内容と配列になっている。

という点が選定の大きな理由となっております。音楽（器楽合奏）につきまして、ご審議をお願いいたします。

【委員】

この選定理由にとっても共感するところが多く、最後の打楽器の説明写真がとて多いなと感じました。アゴゴについては持っている学校もあるかと思いますが、カホンがある学校はあまりないと思いますので、そういう楽器まで載っていて良いと思います。以上です。

【教育長】

よろしいでしょうか。それでは次に、美術をお願いします。

【義務教育課長】

美術は3社ございまして、推薦として挙がってきたのが、開隆堂と光村図書でございました。採択協議会で協議をし、美術につきましては、開隆堂を答申として挙げさせていただきます。

選定理由書の9ページをご覧ください。選定理由としましては、

○表紙は凹凸のある特殊な加工がされており、視覚だけでなく、触覚からも想像を膨らませ、美術への関心・意欲を高められるよう工夫されている。

○教科書本編にはコートマット紙が採用されており、作品の写真映えに加え、反射を極力抑え、より集中して鑑賞しやすい仕上げとなっている。

○原寸大の作品画像が掲載されており、授業の導入などで使いやすい。

○題材ごとに育成すべき資質・能力の三つの柱に基づいた「学習の目標」がわかりやすく示されている。

という点が選定の大きな理由となっております。表紙につきましては、保護者の方もとてもインパクトがあるということをおっしゃられておりました。あと、コートマット紙について、紙質が光の反射が少ない物が採用されていますので、鑑賞をするときにとてもやりやすいということが調査員から挙がっております。美術につきまして、ご審議をお願いいたします。

【教育長】

説明ありがとうございます。ご意見・ご質問等ありますでしょうか。

【委員】

私も触ってみましたが、今ご説明いただきましたように本当に生徒が身近に感じるような、そうした工夫をされているなということで、私も推薦させていただきます。

【教育長】

もう一つの光村図書に関しては、日本画のところが和紙でできているという工夫もされているようでしたが、総合的に見ると開隆堂の方が良いということですね。

よろしいでしょうか。続きまして、保健体育の説明をお願いします。

【義務教育課長】

保健体育は4社ございまして、推薦として挙がってきたのが、東京書籍と大修館でございます。採択協議会にて協議をし、保健体育につきましては、大修館を答申として挙げさせていただきます。

選定理由書の9ページをご覧ください。選定理由としましては、

○本文が読みやすく、わかりやすい。また、写真、挿絵、図、表などの資料が、適量である。

○「課題をつかむ」では、課題の提示がわかりやすく、すべての生徒が答えられる問いかけになっている。

○デジタルコンテンツが充実しており、動画や資料を用いて授業を進めることができる。

○QRコードを読み取ると、生徒自身の媒体で学習することができ、家庭学習の推進につながる。

○章のまとめでは学習したことを振り返って、日常生活に活かすことができる。

という点が選定の大きな理由となっております。保健体育につきまして、ご審議をお願いいたします。

【教育長】

保健体育についてご意見・ご質問等ありますでしょうか。よろしいでしょうか。続きまして、技術・家庭（技術分野）です。説明をお願いします。

【義務教育課長】

技術・家庭（技術分野）は3社ございまして、推薦として挙がってきたのが、教育図書と開隆堂でございます。採択協議会で協議をし、技術家庭技術分野につきましては、教育図書を答申として挙げさせていただきます。

選定理由書の10ページをご覧ください。選定理由としましては、

○各分野で課題解決のためのものづくりの過程が、よりわかりやすく示されている。イラストやQRコードの配置のタイミングも良く、見通しを持って製作することができるようになって

いる。
○2章の「プチ問題解決にチャレンジ」の制作題材は、基礎技能が学べる易しい題材となっており、作業工程がより丁寧に示されていて、最も効率的に生徒が見通しを持って実習に取り組めるようになっている。

○別冊「スキルアシスト」では、製作に必要な道具類の使い方や安全面に配慮した事項などが端的にまとめられており、教科書のQRコードによる映像資料と合わせて使用することで、生徒がより主体的・対話的に取り組むことができる。

という点が選定の大きな理由となっております。技術・家庭（技術分野）につきまして、ご審議をお願いいたします。

【教育長】

説明ありがとうございます。ご意見・ご質問等ありますでしょうか。

【委員】

技術・家庭はこの技術分野と次の家庭分野の両方ともですが、中学生に非常にしっかり学んで欲しい内容がたくさんあり、個人的には技術・家庭の授業時数をもっと増やして欲しいと思っています。今紹介がありました、教育図書の別冊になっている「スキルアシスト」については、今どんな道具があって、どういう時にどう使うかいうことは、もしかしたら中学生よりも保護者の方がしっかりと学んだ方がよいのではないかと思います。

そういう面で、中学生たちが学校で学んで持ち帰り、家族の人と一緒に学んで欲しい内容にもなっています。本当に各社ともよくできていますが、学校の授業時数が少ないので、家庭で家族と一緒にこの教科書を使いながら学んだり考えたりしていただきたいです。スキルとしてきちんと身につけて欲しいので、そういう点では、この教科書の採択をした方がいいと思います。以上です。

【委員】

小学校の図画工作に続いてくる部分が技術かと思うのですが、個人的には小学生を相手に、科学工作みたいなものをさせていただいて、例えばカッターを使うことが怖かったり、サンドペーパーを使って怪我をしたり工作をすることが苦手になっているのを実感します。昔の、金工や木工で物をどんどん叩いたり打ったりして作るという時代からは変わっているけれども、そういうことが生活の中で、ちょっとした工夫ができるような人が減ってるような気がします。

実際、大人になって生活していくときに、この分野はとても大事ですが忘れられていって、再利用しないで捨ててしまったり、少し直したら使えるものを直さなかったりということが増

えているような気がします。教科書採択とは話がずれますが、そういうことを大事にしている教育図書の教科書が良いかと思います。

【教育長】

お二人のご意見は共通しているところがあると思ひまして、それが協議会の中でもテーマとして、別冊「スキルアシスト」が色々な道具の使い方が載っていて、生徒にとってわかりやすく書かれていて、評価されていました。子どもたちがこれを見て自分で学んでいってほしいです。お二人の委員が言われたことと繋がるのではないかなと思います。よろしいでしょうか。続きまして家庭分野になります。説明よろしくお願いします。

【義務教育課長】

家庭分野につきましては3社ございまして、推薦として挙がってきたのは、教育図書と開隆堂でございます。採択協議会で協議をし、技術・家庭（家庭分野）につきましては、開隆堂を答申として挙げさせていただきます。

選定理由書の11ページをご覧ください。選定理由としましては、

- 「先輩からのエール」の設定や「参考」「発展」の設定により、キャリア教育や現在の課題に連結できる資料が掲載されている。例えば、現在の社会問題である「ヤングケアラー」「成長における公的なお金」「アタッチメント（愛着）と探索行為」「子ども食堂」「フードバンク」等が掲載されていることにより、その話題にふれやすくなっている。
- 資料が豊富で、視覚的に学習することができるため生徒の理解度が上がる工夫が見られる。コロナ禍以後の情報が掲載されており、リアルタイムの情報が載っている。例えば、「衣料品はどこでつくられるのだろうか？」「家庭生活を支える社会」「アニサキス」の掲載は、興味深い。
- 「学習のまとめ」では単に重要語句を確認するだけにとどまらず、考えさせることに重点が置かれ、生徒が振り返る時間の設定がされていて非常に良い。教科書に書き込める形式が、ニーズにあっている。

という点が選定の大きな理由となっております。調査員の先生方からは、どの出版社の教科書もととてもよくできているけれども、今回については、開隆堂は内容の見直しが一番されており、一番に推薦したいというご意見でした。技術・家庭（家庭分野）につきましては、ご審議をお願いいたします。

【委員】

技術・家庭は非常に現代的なことをしっかりと学ぶということが大切です。特にこの家庭分野は、現在の社会的な問題をこの教科だけで扱うのには重大な問題がたくさんあると思います。例として、先ほど出てきたヤングケアラーの問題であるとか、貧困の問題とかそれから家族とか家庭に対しては、非常に社会的な関心があり、社会問題でもあるので、私はこの家庭分野だけの学習では明らかに足りないと考えます。

少なくとも社会科の中の、特に公民的な分野では現代社会について学んだり、私たち自身について学んだりするところもあります。社会科との連携や、さらに国語的な教材というような形で、まさに教科横断的な学びが絶対的に必要だと思います。

特に、ヤングケアラーの問題であるとか、家族の中の様々な問題を抱えた生徒がもしあれば、これはやはりそういう生徒の状況をよく踏まえた授業をしていかなければなりません。基本的に教科書会社は、その辺は配慮して書かれておりますが、私はまだ少し足りないと思います。先生たちが、現実の目の前の生徒たちの家庭状況を把握することは中々難しいと思いますが、必要に応じて、そういう一人ひとりの生徒を理解した上で、この授業をして欲しいと思っています。

採択としては今申し上げたような現代的な問題を教科書として取り上げていますけれども正直、十分とは言えないテーマもあるので、その辺のところについては、授業の工夫をして欲しいということを申し上げておきたいと思います。以上です。

【教育長】

ヤングケアラー等の言葉が教科書に出るということで、授業でそういうことを扱いやすいというコメントもございました。

よろしいでしょうか。続きまして、英語になります。説明よろしくお願いします。

【義務教育課長】

英語につきましては6社ございまして、推薦として挙がってきたのが、東京書籍、開隆堂、教育出版でございます。採択協議会で協議をし、英語につきましては開隆堂を答申として挙げさせていただきます。

選定理由書の11ページをご覧ください。選定理由としましては、

- 各单元では、最初に絵や写真が配置されている。また、活動ごとに、本文や写真などが効果的に配置され、生徒が興味を持つように非常に工夫されている。
- 各 program で、「場面設定→予備知識の習得→本文→review、retell による振り返り→発信→整理」の構成となっており、ゴールまでにすべての技能を活用できるように工夫されている。
- 特にオーセンティックな英文が使用されており、質量ともに充実している。
- 各レッスンは4技能5領域を統合的に養成でき、実際のコミュニケーションにつながる学習ができるようなタスクで構成されている。
- 英語学習における重要な技能を系統的に扱っており、自ら学び、発信する主体的な学習者の育成につながる。

という点が選定の大きな理由となっております。英語につきましてご審議をお願いいたします。

【教育長】

説明が終わりました。ご意見・ご質問等ありますでしょうか。

【委員】

英語は小学校5年生から評価をされるようになって、教科書も作られ、ある程度時間が経ちました。小学校と中学校の教科書が繋がっている方がいいかと思います。小学校が今、開隆堂で授業が進められていて連携できますし、今説明がありましたが、興味を持つように非常に工夫されています。見ててわかりやすい、楽しい教科書だなというイメージを個人的にも持ちましたし、英語について一番大事にしたいのは、コミュニケーション能力と思いますが、そのことについても開隆堂は非常に力を入れられているように感じましたので、開隆堂が良いかと思います。

【教育長】

よろしいでしょうか。それでは最後に、道徳になります。説明をお願いします。

【義務教育課長】

道徳は7社ございまして、推薦として挙がってきたのが教育出版、光村図書、Gakken でございます。採択協議会で協議をし、道徳につきましては、Gakken を答申として挙げさせていただきます。

選定理由書の12ページをご覧ください。選定理由としましては、

- 自分の生活と関連させて考えられる教材が多く、生徒が興味を持ちやすく、場面を想像しやすい。そのため、教材が生徒にとって非常に理解しやすく、とても考えを広げやすい。
- 主人公視点で考える作品が多く、生徒が考えをととても深めることができる。
- 題名の下にある一言が生徒に語りかけるように書かれており、生徒の興味を掻き立てる。
- 「考えよう」では、教材についての発問だけでなく、社会全体に問いかける発問があり、考えを広げていくことができる。

という点が、選定の大きな理由となっております。道徳につきまして、ご審議をお願いいたします。

【教育長】

道徳につきまして、ご意見・ご質問等ありますでしょうか。

【委員】

これまでは日本文教出版の教科書を使っていて、道徳ノートはそのまま活用するということだったと思うのですが、その辺りはどうなったのでしょうか。Gakken がダメだということではなく、教科書が変わっていくことについての議論があったのかの質問です。

【義務教育課長】

道徳ノートにつきましては、今回話題に出たことをご説明させていただきます。まず、教科科となった時に、日本文教出版の方で道徳ノートがありました。初めは、道徳ノートがあった方が先生方は授業をしやすいということで、日本文教出版を採用いたしました。

しかし、ノートに書かれている発問が固定されていて、先生方が授業で違う内容を子どもたちに聞きたいときに少し使いにくく、次の改訂された時には、ノートの中に発問がなくなりました。今中学校では発問の書かれていない道徳ノートを使っていますが、発問をノートに書く時間を確保しなければならず、その発問を書くだけで時間を取られてしまう子どもたちも中にはいるようです。中身の方に時間をとって書かせたいのですが、その書く時間を十分にとりにくくなっていることで、この道徳ノートは使いにくいということです。

先生方は、初めから先生方が考えられた発問でワークシートを作り授業をした方がやりやすいというご意見がございました。

【委員】

道徳が教科化された時に、一体教科書はどのようなのかなと非常に興味を持ちました。今回の教科書も編纂する編集委員会が独自に書き起こした文章が随分使われていて、本当に各社特色のあるすばらしい教科書ができていると思います。

ただ、他の教科以上にこの特別の教科道徳というからには、教科書にあまり依存しすぎた授業になってはいけなく、先生たちが工夫しやすい教科書になっているのが丁度良いと思います。そういう面で言うと、書くことによって考えをまとめることもありますけども、それ以上に、生徒同士で話し合いをしたり意見交換をしたりというようなことをしやすいような内容になっているのが良いとおもいます。

現代的なテーマである、例えば人権についてしっかりと学べる等、テーマは道徳の場合にはたくさん設定できると思います。先生方がこの教科書を使って、より一層、自分が教える生徒たちの状況に合わせた授業展開をぜひして欲しいです。

他の教科と違って、中学校では全員の先生が教えられるようにしなければならず、そういう点でいうと校内研究とか研修をしやすいです。この辺を、学校全体で道徳教育のあり方について、授業改善を含めてやって欲しいと思いました。私も Gakken の教科書は中々面白くできているなと思いますので、選定委員会の判断に私は賛成したいと思います。

【教育長】

よろしいでしょうか。以上で 16 種目の協議会からの答申の説明がありました。すべてについて、採択協議会の答申を認めるご発言だったかと思います。それでは令和 7 年度に使用する中学校教科用図書について、豊能郡地区教科用図書採択協議会からの答申通りでよろしいでしょうか。よろしければ挙手をお願いいたします。

(挙手全員)

挙手全員でありますので、答申通りとさせていただきます。続きまして、令和 7 年度に使用する小学校（義務教育学校前期課程）教科用図書の採択について事務局より説明をお願いします。

【義務教育課長】

来年度、小学校で使用する教科用図書につきましては、「義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関する法律」第14条に基づき、令和6年度と同一の教科書を採択するというご確認いただきたいものとなっております。「義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関する法律」、資料としてお渡ししておりますが、そちらの3ページをご覧ください。第14条に「義務教育諸学校において使用する教科用図書については、政令で定められているところにより、政令で定める期間、毎年度、種目ごとに同一の教科用図書の採択をするものとする。」としております。政令で定める期間が4年間となっておりますので、令和7年度の小学校使用の教科用図書につきまして、来年度は2年目ということになりますので、今年度と同一の教科用図書を採択するというご確認をお願いしたいと思います。以上です。

【教育長】

それでは中学校教科用図書から申し上げますと、種目国語につきましては株式会社三省堂「現代の国語」、書写は光村図書出版「中学書写」、社会（地理的分野）は株式会社帝国書院「社会科 中学生の地理 世界の姿と日本の国土」、社会（歴史的分野）は日本文教出版株式会社「中学社会 歴史的分野」、社会（公民的分野）は教育出版株式会社「中学社会 公民 とともに生きる」、地図は株式会社帝国書院「中学校社会科地図」、数学は東京書籍株式会社「新編 新しい数学 ～MATH CONNECT 数学のつながり～」、理科は株式会社新興出版社啓林館「未来へひろがるサイエンス」、音楽（一般）は株式会社教育芸術社「中学生の音楽」、音楽（器楽合奏）は株式会社教育芸術社「中学生の器楽」、美術は開隆堂出版株式会社「美術」、保健体育は株式会社大修館書店「最新 中学校保健体育」、技術・家庭（技術分野）は教育図書株式会社「新 技術・家庭 技術分野 明日を創造する／スキルアシスト」、技術・家庭（家庭分野）は開隆堂出版株式会社「技術・家庭 家庭分野 自立しともに支え合う生活へ」、英語は開隆堂出版株式会社「Sunshine English Course」、道徳は株式会社Gakken「新版 中学生の道徳 明日への扉」。

ただいま説明がありました令和7年度の小学校の教科書につきましては、国語は光村図書株式会社「国語」、書写は光村図書出版株式会社「書写」、社会は東京書籍株式会社「新編 新しい社会」、地図は株式会社帝国書院「楽しく学ぶ 小学生の地図帳3・4・5・6年」、算数は学校図書株式会社「みんなと学ぶ 小学校 算数」、理科は東京書籍株式会社「新編 新しい理科」、生活は東京書籍株式会社「新編 新しい生活」、音楽は教育出版株式会社「小学音楽 音楽のおくりもの」、図画工作は日本文教出版株式会社「図画工作」、家庭は開隆堂出版株式会社「わたしたちの家庭科」、保健は東京書籍株式会社「新編 新しい保健」、英語は開隆堂出版株式会社「Junior Sunshine」、道徳は日本文教出版株式会社「小学道徳 生きる力／道徳ノート」となります。

採決を行います。第6号議案「令和7年度使用小学校及び中学校教科用図書の採択について」、賛成の方の挙手をお願いいたします。

（挙手全員）

挙手全員であります。よって第6号議案は可決されました。ありがとうございました。以上で審議事項は終わりになります。

続きまして、前回会議以降の各課の報告に移ります。

まず私から、7月10日に、大阪府教育庁主催の関西万博説明会がありました。当日は府の教育長から、今課題になっているガスの対策であるとか、会場の視察をさせていただき、子どもたちの招致をよろしく願いますとのことでした。会場については大方でき上がっておりまして、大屋根にも上がらせていただきました。内部に外国のパビリオンができる予定です。私たちが入らせていただいた大阪のヘルスケアパビリオンはほとんどできていました。大屋根のところでは、木材について福島の浪江というところの国産材を使っているとのことでした。枠組みが清水の舞台の和式のつくりで作っているとのこと。強度が足りないのでは見えないところでは金属を使っているが子どもたちのSDGsの学習には良いという印象を受けて帰ってきま

した。またこれから色々なところで順次進めていけたらと思っています。

少し時間が長くなっていますので、一旦ここで休憩をさせていただきます。35 分から再開いたします。

(5 分休憩)

【教育長】

それでは再開させていただきます。事務局より順次報告をお願いします。

【こども未来部長】

- ・東地区の義務教育学校の場所について

【教育総務課長】

- ・旧吉川中学校の工事の関係について
- ・事業評価・点検について

【生涯学習課長】

- ・イベント関係について

【教育長】

よろしいですか。それでは本日の議事はすべて終了いたしました。次に8月の教育委員会会議の日程ですが、8月28日（水）午後2時から予定しております。以上をもちまして、令和6年度第4回豊能町教育委員会会議7月定例会を閉会いたします。お疲れ様でした。

閉会 午後 3 時 47 分